



博士課程の概要 Program Outline

本学博士課程文化交流専攻には、言語コース、文化コース、国際社会コースの3つのコースがあります。

本課程は、言語、文化、歴史、政治、経済、社会、国際関係等の領域を従来のように閉じられたものとしてではなく、「交流」、「接触」、「摩擦」、「共生」といった相互の関係性の中でとらえていくことが必要不可欠だと考えます。そのため、研究領域の枠組みをできるだけ緩やかに柔軟なものにすることによって、それぞれの分野が相互に刺激し合い、研究・教育のより一層の活性化をはかるとともに、創造的で大胆な発想を備えた知性を生み出したいという配慮のもとに、一専攻のなかに3コースを設置しました。

The Doctoral Program provides students with a choice of three courses: the Linguistics Course, the Cultural Studies Course and the Social Studies Course. Students study the interchange, contact, friction and coexistence of cultures, all common to their fields of study, while they are also engaged in research in their respective areas of specialization. This curriculum gives students the opportunity to be original and creative, and it aims to foster those who can reshape conventional and closed fields of study into highly interdisciplinary new ones.

修業年限 Course Term

3年 Three Years

入学定員 Enrollment Quota

専攻 Major	コース Course	定員 persons
文化交流専攻 Cross-Cultural Interaction	言語コース Linguistics	12
	文化コース Cultural Studies	
	国際社会コース Social Studies	

学位 Degree

専攻名・コース名 Major & Courses	学位 Degree	学位に付記する専攻分野の名称 Major Appended to the Degree
文化交流専攻 Cross-Cultural Interaction ・言語コース Linguistics ・文化コース Cultural Studies ・国際社会コース Social Studies	博士 Ph.D.	文学 Literature 国際関係学 International Relations 学術 Philosophy

*学位記は日本語で発行します。希望する者には英訳の証明書を学位記とともに発行します。

The Doctor's Degree Certificate is issued in Japanese. Its authenticated English translation is available upon request.



課程修了要件 Program Completion Requirements

外国語学研究科において博士の課程を修了し、博士の学位を得るためには、本学博士課程に3年以上在学し、大学院履修規程に定める授業科目のうち、専攻するコースの授業科目4単位以上を含む合計6単位以上を取得するとともに、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格することを要します。

A candidate for the Doctor's degree will study at the university for at least three years, acquire 6 credits or more from the predetermined class subjects, submit a Doctoral Dissertation and pass its screening in addition to the final examination.

学位授与方針 Diploma Policy

所定の単位の取得と博士論文の提出を前提とします。博士論文においては、研究テーマの妥当性、先行研究との関連性、当該分野への学術的な貢献度、論理展開の透徹性、方法論の客観性・一貫性などを中心に総合的に評価します。独創的な視点で研究を遂行する自立した研究者として、将来にわたって活躍が期待される博士論文提出者に対し学位を授与します。

博士論文審査会



神戸市外国語大学学術情報リポジトリ Repository of Kobe City University of Foreign Studies

<https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/>

本学の教員・院生の作成した教育・研究成果物を保存し、学内外に無償で公開しています。

This is the University's institutional repository which aims to provide open-access to KCUFS research results from a variety of sources, including journals, working papers, scholarly materials, and doctoral dissertations.



博士課程研究支援 Research Support

学術国際会議研究発表助成 Grant for travel expenses

博士課程に在学し、海外で開催される学術国際会議や学会において研究成果の発表を行う方を対象に、大学から補助金を支給します。

【助成内容】 学会等の登録料及び国際航空運賃(往復)の実費 上限150,000円/人

KCUFS provides doctoral students with travel expenses and registration fees up to 150,000 yen who make presentation at an international conference held outside Japan.

ティーチング・アシスタント Teaching Assistant

博士課程の学生が将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会を提供するため、ティーチング・アシスタント(T.A.)の制度を設けています。KCUFS offers teaching opportunities for future teachers and researchers.

おすすめします

学術国際会議研究発表助成
ティーチング・アシスタント

岸田 早織
(言語コース3年)

私は2018年度、学術国際会議研究発表助成制度、そしてティーチング・アシスタント(T.A.)制度の両方を利用しました。
ヨーロッパやアメリカなどの学会へ参加するとなれば当然、必要な費用も高くなり、国内での学会参加に比べて、ハードルが高くなってしまおうと思います。この制度を使えば学会の登録料や国際航空運賃を1回あたり最大15万円まで負担してもらえ、研究者としての経験値を上げる大きなチャンスになります。私自身もこの制度のおかげで、スペインで開催された国際学会での研究発表を実現することができ、研究者としての大きな一歩を踏み出すことができたと感じています。
またT.A.としては、授業に必要な資料準備のお手伝いをしたり、教授と学生の間に立つ中間的立場から、学生のフォローを行ったりしています。教員としての経験が長い先生の授業を実際に見ることができ、日々学ぶことばかりです。

研究成果の公表支援 Grant for publishing

研究科論集 Kenkyuka Ronshu (Journal)

「博士課程院生協議会」が主体となり、毎年論集を1冊発行しています。印刷費として上限25万円を大学から補助しています。KCUFS provides up to 250,000 yen to doctoral students who publish a journal which is edited independently by doctoral students once a year.

外大論叢 Gaidai Ronso (Journal)

教員の研究成果の発表の場として刊行している外大論叢に、論文掲載の応募することができます。KCUFS offers publication opportunities of research results for professors and doctoral students can apply their journal to be posted on it.

在学延長制度 System for Extension of Enrollment Period

本学大学院博士課程に在籍する者で、学位論文(博士論文)の執筆のために標準修業年限(3年)を超えて引き続き研究活動を行う者に、在学を認める制度です。This system allows for an extension of the enrollment period for those students who would like to continue working on their doctoral theses.

If the extension is granted, the tuition fees will be waived.



文化交流専攻

Cross - Cultural Interaction



言語コース Linguistics Course

本コースは、日本語とその近隣言語を対象とした包括的な言語研究を行うことを目的としており、各言語の交流と接触の諸相を見通しながら個々の言語を研究するとともに、時間と空間、地理的特性などの観点から多様な言語を比較研究します。

This course aims at providing comprehensive language studies by focusing on Japanese and its neighboring languages, observing prospects of language exchange and contact in the future, studying each individual language, and comparing various languages in terms of time, space and geographical features.

文化コース Cultural Studies Course

文化コースは、世界を、日本を含むアジア地域、中近東とアジアの一部を含むイスラム圏、ヨーロッパと南北アメリカの4つの地域に分け、それら相互の交流、接触と個々の文化研究を着実かつ創造的に研究します。

The course aims at promoting surefooted and creative studies under the four divisions of a cultural framework: Asia including Japan, Russia, Europe and the Americas combined, and an Islamic sphere, instead of the traditional divisions based on political structure.

国際社会コース Social Studies Course

このコースでは、激動と変革の時代の中で大きく揺れ動いている国際社会を、その基礎となる地域社会の研究を出発点にしながら相互関係を含めて総合的に研究を進めます。法律政治、経済経営、地域研究の3つの分野における多様なプログラムを提供します。

In this course, we provide a variety of programs in three fields based on our university's long tradition as a foreign language educational institution: Law and Politics, Economics and Management, and Area Studies.

博士論文の執筆 Writing of Doctoral Dissertation

博士課程に入学した者は、1年次・2年次の各年次において、入学当初に提出した「執筆計画書」に沿い、「報告論文」を作成し指導教授に提出します。2年次の報告論文の審査に合格した者には、論文執筆許可が与えられ、論文執筆許可を得た者は、学内3名以上からなる審査委員会によって行われる「予備審査」に申請することができます。

予備審査に合格すると「本審査」の申請をすることができ、本審査では予備審査委員に学外専門家1名以上を加えた博士論文審査委員会において審査を行います。

Doctoral students must submit an "annual study report" to their supervising professor in both their first and second years according to the "writing plan" submitted upon enrollment. Those who pass the screening of the second year report are allowed to write a Doctoral Dissertation and apply for preliminary screening. Students who pass the screening are then allowed to apply for the final screening. The final screening committee is composed of scholars, including at least one from outside this university.

担当教員 Academic Staff

言語コース Linguistics Course

日本語演習 Japanese Linguistics
●教授/Professor
福田嘉一郎 Yoshihiro FUKUDA
●教授/Professor
中井幸比古 Yukihiko NAKAI
●教授/Professor
岩男 考哲 Takanori IWAO
●准教授/Associate Professor

アジア言語演習 Asian Linguistics
●教授/Professor
下地早智子 Sachiko SHIMOJI
●教授/Professor
竹越 孝 Takashi TAKEKOSHI
●教授/Professor
任 鷹 Ying REN
●教授/Professor
林 範彦 Norihiko HAYASHI
●教授/Professor
金子百合子 Yuriko KANEKO
●准教授/Associate Professor



欧米言語演習 European & American Linguistics
●教授/Professor
本多 啓 Akira HONDA
●教授/Professor
Montserrat SANZ モンセラット サンズ
●教授/Professor
山口 治彦 Haruhiko YAMAGUCHI
●教授/Professor
川口 正通 Masamichi KAWAGUCHI
●准教授/Associate Professor

文化コース Cultural Studies Course

日本文化演習 Japanese Culture
●准教授/Associate Professor
山本 昭宏 Akihiro YAMAMOTO

アジア文化演習 Asian Cultures
●教授/Professor
北見 諭 Satoshi KITAMI
●教授/Professor
清水 俊行 Toshiyuki SHIMIZU
●教授/Professor

欧米文化演習 European & American Cultures
●教授/Professor
David Lee FARRAH デイヴィッド・リー・ファラ
●教授/Professor
指 昭博 Akihiro SASHI
●教授/Professor
難波江仁美 Hitomi NABAE
●教授/Professor
野村 竜仁 Ryujin NOMURA
●教授/Professor
成田 瑞穂 Mizuho NARITA
●教授/Professor
山之内克子 Yoshiko YAMANOUCHI
●教授/Professor



国際社会コース Social Studies Course

国際法政比較研究 Comparative Studies of International Laws and Politics
●准教授/Associate Professor
五月女律子 Ritsuko SAOTOME

国際経済・経営比較研究 Comparative Studies of International Economy and Management
●教授/Professor
中村 嘉孝 Yoshitaka NAKAMURA
●教授/Professor
田中 悟 Satoru TANAKA
●教授/Professor
江阪 太郎 Taro ESAKA
●准教授/Associate Professor

地域研究 Area Studies
●教授/Professor
千葉 典 Tsukasa CHIBA
●教授/Professor
大石 高志 Takashi OISHI
●教授/Professor

最近の博士論文のテーマ Recent Doctoral Dissertation

- ・漢語方位詞の語義演化経路及其認知機制研究---主要以“上”、“下”为例---
(中国語における方位詞の意味変化プロセスと認知メカニズムの研究 一主として「上」、「下」を例に一)
- ・現代日本語のヴォイスに関する研究 一中国語との対照を交えて一
- ・日本語と中国語における名詞句の意味機能に関する対照研究
- ・中原官話汾河片音韻史研究(中原官話汾河支派方言グループ音韻史研究)
- ・Perception and Linguistic Form:A Cognitive Linguistic Analysis of the Copulative Perception Verb Construction
(知覚と言語形式:連結的知覚動詞構文に関する認知言語学的研究)
- ・漢語福清方言の記述言語学的研究
- ・Estudio comparativo de las mimesis del japonés y el español.Propuesta de marco teórico ante los problemas de traducción(日西オノマトベ比較研究 翻訳のための理論的枠組みの提案)
- ・現代中国語の余剰否定現象の研究
- ・チベット語アムド農民方言一音韻体系と文の基本構造一
- ・現代漢語中几种含“给”结构研究(現代中国語におけるいくつかの“给”構文に関する研究)



院生紹介 Message from a Student

なぜ博士課程に進学しようと思いましたか？

修士課程は関西圏の他大学院を修了しました。私が修士課程の頃までは、文系の場合まだ博士課程への進学が少ない時代でした。また修士課程修了後すぐに複数の大学で非常勤講師として勤めることができたため、その当時は博士課程に進学することを考えていませんでした。ところが修了後、なかなか思うように研究成果を挙げる事ができず、一時、海外の通信大学の博士課程に在籍したこともありましたが、しかし教授との距離のある指導スタイルに馴染めないまま、その後、結婚・出産でその大学を離れてしまいました。そこで子育てで落ち着いたのを機に、一念発起して著名な教授陣の講義を直接受けられる神戸市外大の博士課程に進学することを決めました。

これまでの研究活動でどんな経験をられましたか？

私の場合、修士課程修了から博士課程入学までの期間がかなり空いてしまったため、博士論文に向けての研究をすぐに始めることができるのか心配でした。しかしアットホームな雰囲気の中神戸市外大大学院は先生方との距離が近いので、指導を受けやすく、自然と研究を進めることができました。そしてすぐに「[外大論叢]」への執筆や国内学会での発表の機会も与えていただきました。そのおかげでこれまでに論文2本が学会誌等に掲載されました。また

3件の学会発表(国内学会2件、国際シンポジウム1件)も行うことができました。こうした研究活動をスムーズに進めることができたのは、常に指導教員の先生方が論文の執筆や発表の準備の際に親身になってご指導くださったおかげです。そして年齢を気にせずに話せる院生仲間ができたことも研究をする上での大きな支えとなりました。

博士課程への進学を考えている人にメッセージをお願いします。

私は家庭と大学院の両立ができるか不安で約10年間、博士課程への進学を迷っていました。しかしいざ入学してみると、家族も学位取得を応援し、様々な面で協力してくれるようになりました。また大学院での研究を再スタートしたことで、修士時代の恩師からも研究について様々なご助言をいただけるようになりました。こうした周りの温かいサポートもあって、指導教員の先生方のもとで集中して研究課題に取り組みすることができた結果、研究者として自立した研究活動ができるという自信を持てるようになりました。進学するかどうか悩んでいる方がいれば、まずは始めてみるのでもいいかもしれません。博士課程進学後にはきっと今の不安は払拭され、新しい道を切り開くことができると思います。

赤嶺 恭子(3年)
Kyoko AKAMINE